

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.6.9-15

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

35:9 【主】はモーセに告げられた。
 35:10 「イスラエルの子らに告げ、彼らに言え。ヨルダン川を渡ってカナンの地に入るとき、
 35:11 あなたがたは町々を定めて、自分たちのために逃れの町とし、誤って人を打ち殺してしまった殺人者がそこに逃れることができるようにしなければならない。
 35:12 この町々は、復讐する者からあなたがたが逃れる場所となる。殺人者が、さばきのために会衆の前に立たないうちに死ぬことのないようにするためである。
 35:13 あなたがたが与えるべき町は六つの逃れの町で、それらは、あなたがたのためのものである。
 35:14 このヨルダンの川向こうに三つの町を、カナンの地に三つの町を与えて、逃れの町としなければならない。
 35:15 イスラエルの子ら、または彼らの間に在住している寄留者のために、これら六つの町は逃れの場所となる。すべて誤って人を打ち殺してしまった者が、そこに逃れるためである。
 35:16 もし鉄の器具で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺されなければならない。
 35:17 もし、人を殺せるほどの、手に持てる石で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺されなければならない。
 35:18 あるいは、人を殺せるほどの、片手に持てる木製の器具で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺

されなければならない。
 35:19 血の復讐をする者は、自分でその殺人者を殺してもよい。彼に出くわしたときに、殺してもよい。
 35:20 もし、人が憎しみをもちて人を突き倒すか、あるいは悪意をもって人に物を投げつけて死なせたなら、
 35:21 または、敵意をもって人を手で打って死なせたなら、その打った者は必ず殺されなければならない。その人は殺人者である。その血の復讐をする者がその殺人者に出くわしたときには、彼を殺してもよい。

主はのがれの町を設けられました。神の民とはいえ、罪ある人間であるから、トラブルや争いは当然起こるのです。そのような現実的な見通しは必要です。そのような人間理解によってこの規定が制定されています。

これから新しい地に踏み出すからといって、霊的な問題がすべて解決するわけではないのです。それは現代においても同じです。主の御心がなっても、またすばらしい祝福があっても、人間自体はこの世にある限りは、完全になることはできません。私たちがもつ確かな人間観、危機管理意識を持ちましょう。

争いは正しく対処しなければ、さらに大きな問題を引き起こすことになります。主は故意に人を殺した場合と、過失の場合とで区別なさいます。主は人の心を見るからです。私たちもその人の結果だけでなく、内面を見るべきです。また感情で人をさばくことのないようにすべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 火曜

民数



35:22 もし敵意もなく突然人を突き倒し、あるいは悪意なしに何か物を投げつけ、
35:23 または、人を死なせるほどの石を、よく見ないで人の上に落としてしまい、それによってその人が死んだなら、しかもその人が自分の敵ではなく、害を加えようとしたわけではないなら、
35:24 会衆は、打ち殺した者と、血の復讐をする者との間を、これらの定めに基づいてさばかなければならない。
35:25 会衆は、その殺人者を血の復讐をする者の手から救い出し、彼を、逃げ込んだその逃れの町に帰してやらなければならない。彼は、聖なる油を注がれた大祭司が死ぬまで、そこにいなければならない。
35:26 もしも、その殺人者が、自分が逃げ込んだ逃れの町の境界から出て行き、
35:27 血の復讐をする者がその逃れの町の境界の外で彼を見つけて、その殺人者を殺すことがあっても、その人には血の責任はない。
35:28 その殺人者は、大祭司が死ぬまでは、逃れの町に住んでいなければならないからである。大祭司の死後に、その殺人者は自分の所有地に帰ることができる。
35:29 これらのことは、あなたがたがどこに住んでも、代々守るべき、あなたがたのさばきの掟となる。
35:30 もしだれかが人を打ち殺したなら、証人たちの証言によってその殺人者を殺す。一人の証人の証言だけで、人を死刑にすることがあってはならない。
35:31 あなたがたは、殺人者のいのちのために贖い金を受け取ってはならない。彼は死ぬ

べき悪しき者なのである。彼は必ず殺されなければならない。

35:32 逃れの町に逃れさせる代わりに贖い金を受け取り、祭司が死ぬ前に、彼を帰らせて国に住むようにさせてはならない。

35:33 あなたがたは、自分たちのいる土地を汚してはならない。血は土地を汚すからである。土地にとって、そこで流された血は、その血を流した者の血以外によって宥められることはない。

35:34 あなたがたは、自分たちの住む土地、わたし自身がそのただ中に宿る土地を汚してはならない。【主】であるわたしが、イスラエルの子らのただ中に宿るからである。」

人を罪に定めるときには証人が必要であり、それも複数の者が必要であると、主は言われます。罪をさばくときには、特に公平と正確さが求められます。

また贖い金を禁じられます。お金の力で罪をやむやにしないためです。誰でも公平さを保ちましょう。人間的な力で神様のご判断を曲げることのないようにしましょう。それが自分にとって好都合なときほど、私たちは気を付けましょう。主の真実こそが本当の解決であるということを感じぬきましょう。

私たちは争いなどのトラブルを考えたくないのですが、人には罪があることを冷静に受け止めつつ、そこにも主の最善があることを信じましょう。そのために主に聞いて、みこころを行い、主の御名が汚されないように、できる限りのことを尽くしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



36:1 ヨセフ族の一つの氏族、マナセの子マキルの子ギルアデの氏族に属する一族のかしらたちが進み出て、モーセと、イスラエルの子らの一族のかしらである家長たちの前でこう語った。

36:2 「【主】は、くじによってあの地をイスラエルの子らに相続地として与えるように、あなたに命じられました。そしてまた、私たちの親類ツェロフハデの相続地を彼の娘たちに与えるように、あなたは【主】によって命じられています。

36:3 もし彼女たちが、イスラエルの子らのうちのほかの部族の息子に嫁いだなら、彼女たちの相続地は、私たちの先祖の相続地から差し引かれて、彼女たちが嫁ぐ部族の相続地に加えられるでしょう。その結果、私たちが相続する割り当て地は減ることになります。

36:4 イスラエルの子らにヨベルの年が来れば、彼女たちの相続地は、彼女たちが嫁ぐ部族の相続地に加えられ、彼女たちの相続地は、私たちの先祖の部族の相続地から取り去られることになります。」

36:5 そこでモーセは、【主】の命により、イスラエルの子らに命じた。「ヨセフ部族の訴えはもっともである。

36:6 【主】がツェロフハデの娘たちについて命じられたことは次のとおりである。『彼女たちは、自分が良いと思う人に嫁いでよい。ただし、彼女たちの父の部族に属する氏族に嫁がなければならない。

36:7 イスラエルの子らの相続地は、部族から部族に移してはならない。イスラエルの子らは、それぞれその父祖の部族の相続地を堅く

守らなければならないからである。

36:8 イスラエルの子らの部族のうち、相続地を受け継ぐ娘はみな、その父の部族に属する氏族の一人に嫁がなければならない。イスラエルの子らが、それぞれ、その父祖の相続地を受け継ぐようにするためである。

36:9 このように、相続地は、部族からほかの部族に移してはならない。イスラエルの子らの部族は、それぞれ、自分たちの相続地を堅く守らなければならないからである。』」

36:10 ツェロフハデの娘たちは、【主】がモーセに命じられたとおりに行った。

36:11 ツェロフハデの娘たち、マフラ、ティルツァ、ホグラ、ミルカおよびノアは、おじの息子たちに嫁いだ。

36:12 彼女たちは、ヨセフの子マナセの子孫の氏族に嫁いだので、彼女たちの相続地は、彼女たちの父の氏族の部族に残った。

36:13 これらは、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、【主】がモーセを通してイスラエルの子らに命じられた命令と定めである。

結婚により部族ごとの相続地が変更されることで、将来に問題が起きる可能性に気づきました。これに対して、モーセはその意見を受け入れ、主に聞きました。

神の共同体では、メンバーの中から問題解決の糸口が与えられることがあります。指導者は柔軟でありまた謙遜であることが必要です。また最終的には主に聞く必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12日 木曜

詩篇

<第三卷アサフの賛歌。>

73:1 まことに神はいつくしみ深い。イスラエルに心の清らかな人たちに。

73:2 けれどもこの私は足がつまずきそうで私の歩みは滑りかけた。

73:3 それは私が悪しき者が栄えるのを見て誇り高ぶる者をねたんだからだ。

73:4 実に彼らの死には苦痛がなく彼らのからだは肥えている。

73:5 人が苦勞するときに彼らはそうではなくほかの人のように打たれることもない。

73:6 それゆえ高慢が彼らの首飾りとなり暴虐の衣が彼らをおおっている。

73:7 彼らの目は脂肪でふくらみ心の思い描くものがあふれ出る。

73:8 彼らは嘲り悪意をもって語り高い所から虐げを言う。

73:9 彼らは口を天に据えその舌は地を行き巡る。

73:10 それゆえこの民はここに帰り豊かな水は彼らに汲み尽くされる。

73:11 そして彼らは言う。「どうして神が知るだろうか。いと高き方に知識があるだろうか。」

73:12 見よこれが悪しき者。彼らはいつまでも安らかで富を増している。

73:13 ただ空しく私は自分の心を清め手を洗って自分を汚れなしとした。

73:14 私は休みなく打たれ朝ごとに懲らしめを受けた。

主に従っている自分が「足がつまずきそうで私の歩みは滑りかけた。」ということがあります。一方、



主に従わない、さらには自己中心の生きているような人が、「苦痛がなく彼らのからだは肥えている。」というようなこともあるでしょう。信仰する者のひとつの悩みでもあります。

しかしそれは当たり前のことでもあります。この世はまだ神様の支配ではなく、サタン力が残っているのですから。しかしそのような悪の力は一時的なものですから、「ねたむ」必要はありません。

主の目で世界とその先を見て、自分が祝福への道を歩んでいることを確認しましょう。主に従う歩みを進めて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13日 金曜

詩篇



ます。

「私は神の聖所に入って彼らの最期を悟った。」とありますように、私たちは主の臨在あるところで、悟ることができます。そうでないと、この詩篇にあるように、悪者が栄えることの現実に惑わされてしまうのです。

聖所とは教会であり、クリスチャンの交わりであり、ディボーションです。本当の幸せとは何なのかをしっかりとさせましょう。ここには「神のみそばにすることが幸せです。」と宣言されています。そのことを信じて、幸いを味わいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

73:15 もしも私が「このままと語ろう」と言っていたならきっと私はあなたの子らの世代を裏切っていたことだろう。

73:16 私はこのことを理解しようとしたがそれは私の目には苦役であった。

73:17 ついに私は神の聖所に入って彼らの最期を悟った。

73:18 まことにあなたは彼らを滑りやすい所に置き彼らを滅びに突き落とされます。

73:19 ああ彼らは瞬く間に滅ぼされ突然の恐怖で滅ぼし尽くされます。

73:20 目覚めの夢のように主よあなたが目を覚ますとき彼らの姿を蔑まれます。

73:21 私の心が苦みに満ち私の内なる思いが突き刺されたとき

73:22 私は愚かで考えもなくあなたの前で獣のようでした。

73:23 しかし私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりとつかんでくださいました。

73:24 あなたは私を諭して導き後には栄光のうちに受け入れてくださいます。

73:25 あなたのほかに天では私にだれがいるでしょう。地では私はだれをも望みません。

73:26 この身も心も尽き果てるでしょう。しかし神は私の心の岩とこしえに私が受ける割り当ての地。

73:27 見よあなたから遠く離れている者は滅びます。あなたに背き不実を行う者をあなたはみな滅ぼされます。

73:28 しかし私にとって神のみそばにすることが幸せです。私は【神】である主を私の避け所としあなたのすべてのみわざを語り告げ



14日 土曜

詩篇

<アサフのマスキール。>

74:1 神よなぜいつまでも拒み御怒りをあなたの牧場の羊に燃やされるのですか。

74:2 どうか思い起こしてください。昔あなたが買い取られゆずりの民として贖われたあなたの会衆を。あなたの住まいであるシオンの山を。

74:3 あなたの足を永遠の廃墟に踏み入れてください。敵は聖所であらゆる害を加えています。

74:4 あなたに敵対する者どもはあなたの聖なる所でほえたけり自分たちのしるしをそこに掲げています。

74:5 あたかも木の茂みの中で斧を高く振り上げる者のようです。

74:6 今や彼らは手斧と槌で聖所の彫り物をことごとく打ち砕き

74:7 あなたの聖所に火を放ちあなたの御名の住まいをその地まで汚しました。

74:8 彼らは心の中で「彼らをことごとく征服しよう」と言い国中の神の聖所をみな焼き払いました。

74:9 もう私たちのしるしは見られません。もはや預言者もいません。いつまでそうなのかを知っている者も私たちの間にはいません。

74:10 神よいつまではむかう者はそしるのですか。敵は永久に御名を侮るのですか。

74:11 なぜあなたは御手を右の御手を引いておられるのですか。その手を懷から出して彼らを滅ぼし尽くしてください。



仰がなくても歌えそうですが、ここには信仰が表されています。嘆いているのが民のためであり、また御名のためであるということです。

彼は自分が苦しい、大変だというのではなく、多くの人々を思い、また神の誉を憂いたのです。そこに信仰があります。私たちの憂いは、悲しみは、心配はどうでしょうか。自分のことばかりになってはいないでしょうか。他の人への思いがあるでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

バビロニアがユダを滅ぼし、神殿を荒らしたときの歌です。荒らされて、それを嘆くのですから、信



74:12 神は昔から私の王この地において救いのみわざを行う方。

74:13 あなたは御力をもって海を打ち破りその水の上の竜の頭を砕かれました。

74:14 あなたはレビヤタンの頭を踏みにじり砂漠に住むものたちの餌食とされました。

74:15 あなたは泉と谷を切り開き流れの絶えない川を涸らされました。

74:16 屋はあなたのもの夜もあなたのもの。あなたは月と太陽を備えられました。

74:17 あなたは地のすべての境を定め夏と冬を造られました。

74:18 【主】どうか心に留めてください。敵がそしり愚かな民が御名を侮っていることを。

74:19 あなたの山鳩のいのちを獣に引き渡さないでください。あなたの悩む者たちのいのちを永久に忘れないでください。

74:20 どうか契約に目を留めてください。地の暗い所は暴虐の巣ですから。

74:21 虐げられる者が辱めを受けて帰されることがなく苦しむ者貧しい者が御名をほめたたえますように。

74:22 神よ立ち上がりご自分の言い分を立ててください。愚か者が休みなくあなたをそしっていることを心に留めてください。

74:23 忘れないでください。あなたに敵対する者の声をあなたに向かい立つ子どもが絶えずあげる叫びを。

主の勝利を信じ続けられれば、すばらしいですし、それは私たちの勝利でもあります。詩人はそのためにもまず、主の全能を心に留めます。「御力をもって海を打ち破りその水の上の竜の頭を砕かまし

た。」というように。

次に契約に目を留めています。「契約に目を留めてください。」とあります。主の契約を思い起こしましょう。それは聖書の中にあります。またはかつて主からいただいた御言葉を、しっかりと握り直しましょう。

そして敵は「愚か」とであると宣言しています。主に敵対するものは、そのときは優位に立っているようでも、全能者を敵に回しているのですから、愚かなのです。

信仰の根拠を明らかにしましょう。それを確信して宣言し、またそれを土台とした判断をして生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

